



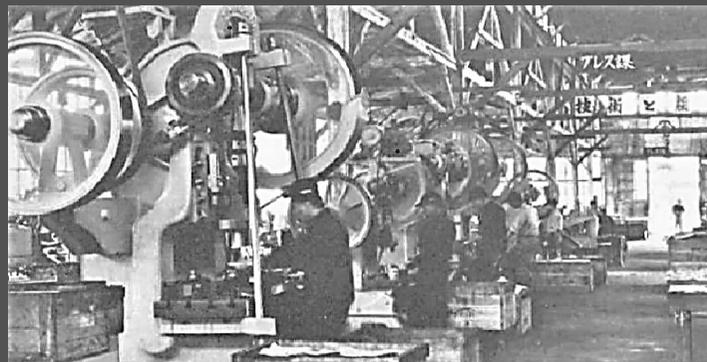
デジタル化が進んだ現在の工場



NCターレットパンチプレス1号機



高松宮殿下視察



昭和30年頃のプレス工場

林製作所の歴史

【創業と初期の事業】

林製作所は、昭和2年（1927年）に林光太郎によって板金工業林製作所として東京で創立されました。その後、プレス部門を設立し事業を拡大（株）林製作所を設立しました。

【戦時中と戦後の復興】

第二次世界大戦の東京空襲により本社が焼失、すでに工場の一部を疎開させていた群馬県高崎市に本社を移転し存続を果たしました。戦後復興から日本は高度経済成長長期に突入し当社にも大きな受注が舞い込むようになり事業を拡大していきまし
た。このころより「カモメホーム」というブランド名にて家庭用品の自社開発を本格化し、世界的なヒット商品となる手回しのカモメホーム洗濯機や石油ストーブを世に送り出します。

【手回し洗濯機の成功と成長】

特にカモメホーム洗濯機は、実用性とデザイン性が評価され、全世界で40万台を販売する大ヒット商品となりました。現在でもテレビクイズ番組に取り上げられ、高崎市の歴史民俗資料館にも展示されています。この時期の当社は従業員数約400人となり、工場は現在の県立高崎女子高の敷地全体に広がっていました。

【事業転換と部品加工業への移行】

昭和40年頃、大手電機メーカーより電動の洗濯機やエアコンなどが低価格で発売されるようになり、当社が手掛けていた家庭用品の需要が縮小してきます。これにより、林製作所は「カモメホーム」ブランドによる製造販売事業を撤退、板金部品、プレス部品の加工を中心とした事業へと転換を図り、高崎市沖町にて再スタートを切ることとなります。

【精密板金加工と業績の拡大】

昭和50年代中盤、モノづくりの潮流が大量生産から多品種少量生産へと変化をはじめ、より高精度な部品加工のニーズも高まってきました。当社は（現会長）林進の主導により多品種少量の精密板金加工に注力し、レーザー切断機等の最新の設備を拡充していきました。平成2年に林進が社長に就任し、平成7年には高崎市内行力町に板金組立工場を竣工。群馬県内においての精密板金加工のリーディングカンパニーの地位を確立していきました。

【経営環境の変化】

主要顧客先2社との取引終了による売上減少や、リーマンショック、東日本大震災による景気減速、サプライチェーンの変化など当社を取りまく環境も大きく変化してきます。その中で展示会やWEBマーケティングという新しい営業手法を取り入れ、医療設備やロボット分野など時代のニーズに合った新たな受注を獲得し変化に対応していきます。

【新たな挑戦とデジタル化】

平成29年に現社長、林司が社長に就任し、翌年には溶接工場を本社敷地内に竣工しました。未来の町工場の形を目指し、ファイバーレーザー複合機やロボットベンダーの導入など、工場の自動化、ロボット化、DX化、省エネ化に着手しました。その裏で今後受注の拡大が見込めないプレス部門については縮小しました。

令和5年からはインスタグラム等のSNSで情報発信を開始し、総再生数650万回（2026年1月現在）を越え、町工場のSNSアカウントとしては全国トップレベルの発信力を得るまでになっています。

【未来へのビジョン】

2027年に当社は創業100年を迎えます。
『これからも最新最高のモノづくりサービス』で社会を豊かに新しくしていくというビジョンの下、地域の中、社会の中での林製作所の価値を高め、持続可能な社会に貢献していきます。



竣工した溶接工場



昭和60年ころの精密板金製品



カモメホーム洗濯機



昭和35年頃 東京営業所社屋